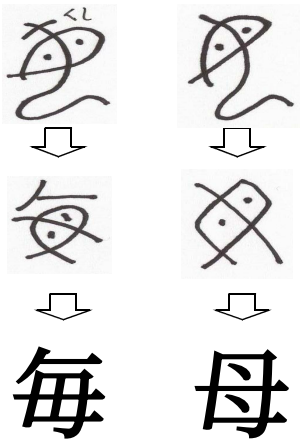
2　表意文字として漢字に対する興味や関心を高める指導について③（２年）

【板書事項】



【指導の流れ】

1 『母』という字は、どうやってできたのでしょう。このように、二つの点は乳房を表しています。」

2 「『母』の字に形が似ている漢字はありませんか。」

C 『毎』の字。

3 「そうですね。『毎』という字は、『母』が基になってできたのです。」

「『毎』の上の部分はお母さんの髪飾り（くし）を表していて、女の人はよく髪の手入れをしていたことから、『いつも』『そのたびに』という意味の『毎』になったそうです。今は、『母』という意味とは関係が薄くなったことから、二つの点ではなく一つにつなげるようになりました。」

4 「では、『毎』の字が入った漢字は何でしょう。」

C 「『海』だ。」

「『海』は、お母さんの心のように広く深いので『毎』が入っています。ところで、『海』の字の左側は何でしょう。これは、『さんずい』といって、水に関係のある言葉に付けられました。『水』は、水が流れている様子からできた字です。左側『へん』として使われるときは、右側にぶつからないように細い形になります。」

『水』は四画ですね。『シ』は三画です。そこで『シ』のことを『三水』『さんずい』といいます。『さんずい』の付く字で、どんなものを知っていますか。」

【留意点】

1 「絵→くずした絵→できた字」の順に示す。

2 実態に応じてヒントを出し、楽しく進める。

3 「毎」の字については、「母」との違いを確認する。

4 「海」の字が未習の場合は、教師が示す。

○ 未習の漢字でも、知っていれば出させる。「『池』も水に関係がありますね。『汽』はどうでしょう。蒸気機関車や汽船などで、湯気が出ている様子からできたそうです。湯気といえば、『湯』（未習）の字にも『さんずい』が付いていますね。そのほかには、これから習っていく『湖』『流』『波』『港』『泳』等があります。」

☆参考資料

「新 二年生の漢字」（さえら書房）

「漢字教室 小学2年」（旺文社）